

長野県立歴史館たより

2021年 夏号 vol.107

特集

青少年義勇軍が見た満州
— 創られた大陸の夢



常設展示紹介

原始

華やかな土器文化と生業

写真の土器は縄文時代中期中葉末（約4,900年前）にあたる焼町式土器系の台付鉢で、塩尻市上木戸遺跡の竪穴住居跡から出土したものです。両側面に把手、その上に円環を4段重ね、胴部には焼町式土器の代名詞であるコイルばねのような貼り付けが多数施されています。かつて10円はがきの印面デザインになったことで知られる水煙文土器の、水の波紋がうねり上るように華やかに立ち上がる文様は、このような円環をはじめ、様々な土器装飾が融合して誕生したと考えられます。

付近の土坑墓からは、ヒスイ製の垂飾がまとまって5点見つかりました。「信州ブランド」黒曜石などと交換するために、北陸方面からもたらされたと考えられます。



← 竪穴住居跡から、出土した時の様子

突起を上にして埋まっていたことが分かる。手前の溝は調査の際、確認のために掘ったもの。

台付鉢
(上木戸遺跡出土当館蔵)

残存高 24.0cm
(台部分は復元につき除く)

9月～11月は秋季企画展「全盛期の縄文土器」で展示します。



古代・中世 瓦が示す古代の信濃

令和3年度の上半期は「古代豪族と仏教」をテーマに古代の瓦を展示します。一般の住宅でも広くみられる屋根瓦ですが、古代では寺院や役所（官衙）などに限られていました。つまり、発掘調査などで古代の瓦が出土すると、近くに寺院や役所に関連する建物、瓦を焼いた窯や工房などがあつた可能性があるということになります。

また、古代の瓦は地域のつながりを示す資料でもあります。例えば、坂城町や上田市で発見されている「葎手文」と呼ばれる独特な文様の瓦は、須坂市の左願寺廃寺からもみつかっています。これは、寺院を造営するという一大事業に対して、地域を飛び越えた協力体制があつたのではと考えられる要因の1つです。

瓦は壊れて使い物にならなくなれば文字通り「瓦礫」となってしまいますが、地域の歴史だけでなく各地で華開いた仏教文化の様子を知ることのできる貴重な資料でもあります。



須坂市左願寺廃寺出土 葎手文軒丸瓦
(米山一政寄贈資料 当館蔵)

陸から眺めた第2回ペリー来航の「黒船図」

この黒船図は、黒船のスケッチとともに、眺めた場所や様子を書き記したものです。作者は不明ですが、文末に「嘉永七甲寅年二月写之」とあるので、アメリカのペリー（Matthew Calbraith Perry 1794-1858）提督率いる黒船による2回目の来航の際の絵を写したものとわかります。

ペリーが初めて浦賀沖に現れたのは、前年6月3日（1853年7月8日）。9日に久里浜（神奈川県横須賀市）へ上陸して国書を手渡し、1年後の返答を求めて去りました。

本書には次の内容が書かれています。

船を見たのは2月5日、場所は生麦（神奈川県横浜市）。7艘の船が本牧（横浜市）と羽根田（東京都大田区羽田）の間にあり、1里（約4km）ほど沖に離れているので、鉄砲穴や帆柱の詳細はわからない。大きさは50～60間（約100m）もありそうで、2艘は「格別大キク」。「船毎の四方に日本御固の船数艘これあり」。

ペリー再来は予定より早かったのですが、その物珍しい姿を見ようと大勢の見物人が押しかけました。幕府だけでなく、庶民も「太平の眠り」を覚まされたような驚きと恐怖を抱いたようです。3月31日に神奈川（横浜市）で日米和親条約が結ばれ、開国を迎えます。そして14年後に明治の世となるのです。



黒船図（当館蔵）

旧信越本線碓氷峠のラックレール

ラックレールは通常の2本の鉄道レールの中央に敷かれ、機関車に取り付けた歯車とかみ合わせることで急勾配を登り下りするための補助レールです。旧信越本線横川駅-軽井沢駅間の碓氷峠は、このラックレールを歯形をずらして3枚重ねて設置するアプト式を日本で初めて採用しました。

碓氷峠は江戸時代から中山道の難所として知られていましたが、26のトンネルと18の橋梁を含む難工事の末、最大傾斜66.7パーミル（1000mで66.7m登る）、標高差553mという急勾配のある横川駅-軽井沢駅間が1893（明治26）年に開通しました。その後も輸送力改善や安全性向上のために、電気機関車の導入や複線化等の改良が進められ、産業発展に大きく貢献してきましたが、1997（平成9）年の北陸新幹線（長野新幹線）高崎-長野間開業に伴い廃線となり、信越本線104年間の歴史に幕を閉じました。



アプト式ラックレールの入口（1963年9月）小西純一氏撮影

町村も募集を募るポスター掲示や送出のための座談会等を実施し、地域の力も巻き込みながら、少年たちの背中を押していきました。

青少年義勇軍となることが決まった児童は、茨城県の義勇軍訓練所（内地訓練所）への出発前、訓練後の渡満前などに、出征軍人に準じた壮行会を行い、自治体、地域をあげて送り出されました。

4 「緞の戦士」になる訓練

全国から募集をされた義勇軍は渡満前に旧下中妻村内原（現茨城県水戸市内原）にあった内原義勇軍訓練所で約2カ月の予備訓練を行います。その後、新潟や敦賀などから渡満をして、現地訓練所で約3年間の訓練をした後、開拓団として入植をしました。義勇軍の教育は、農事を中心として軍事教練に比重をおいた教育内容でした。訓練中、屯墾病（トコトン病）などと言われたホームシックのような精神状態になった訓練生も多かったようです。県や教育会では、義勇軍隊員の慰問や心の安定などを目的として、教員や寮母（女子指導員）などを現地に派遣しています。



S.Ozaki 《無題（渡満準備の様子）》（満蒙開拓平和記念館蔵）

興安丸模型
（舞鶴引揚記念館蔵）

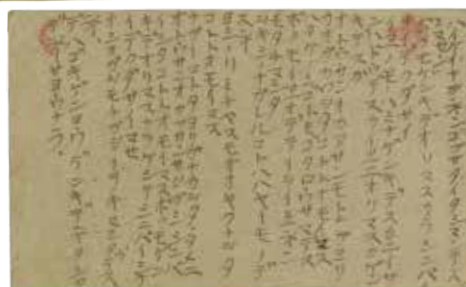


5 夢の終焉 - 逃避行と抑留 -

1945（昭和20）年8月9日にソ連が満州に侵攻してくると、義勇軍訓練所や開拓団の状況は一変します。着の身着のままの逃避行に苦しみ、現地で召集をされていた元義勇軍はシベリアに抑留される者も多かったようです。収容所の抑留生活では、わずかな食料の中、寒さで命を落とす隊員もいました。しかし、労働による肉体的苦痛、共産主義教育による精神的苦痛を受けながらも、捕虜同士で交流を深めたり、内地の家族を気遣う手紙を書いたりして、非常な現実を前に温かな心をつなぎ止めていた人びとの姿もあったことを忘れてはいけません。1946（昭和21）年になり、日本への引き揚げが開始されました。



シベリアからの義勇軍隊員の手紙
（満蒙開拓平和記念館蔵）



6 おわりに

2021（令和3）年は満州移民のきっかけの1つとなった満州事変から90年、そして青少年義勇軍の少年たちが大陸に描いた夢が破れて帰国をする引揚開始から75年となります。少年たちが確かに歩んだ歴史に思いをよせつつ、平和について考えていきたいと思います。（大森昭智）

研究の窓

弥生社会にみる倭製の誕生

～大陸系磨製石器の受容～

稲作文化の大陸からの伝来は、米づくりの技術のみならず、道具製作の技術をも合わせたものでした。大陸系磨製石器と呼ばれる弥生文化特有の石器の製作もそのひとつです。石器全面を磨き仕上げたそれには、磨製石鏃^{せきぞく}、磨製石庖丁^{いしぼうちよう}、磨製石斧があります。

日本列島にそうした石器が渡来すると、先来の縄文文化の製作技術と融合したり、あるいは別の製作技術として受容されて、弥生文化を形成していきました。

磨製石庖丁は、米づくりの広がりとともに列島各地に伝播していきました。あるところでは受け入れられて定着し、それが未定着に終わるところもありました。縄文文化の伝統をひく打製の刃器^{じんき}（石の刃もの）で代用ができたからなのかもしれません。石庖丁は稲作に関わる新たな道具として、地域ごと選択的に取り入れられ、またその導入は緩やかで、飛躍的な改良や発展があまりみられなかったようです。

磨製石斧には、伐採斧^{ぼっさい}（両刃）の太型蛤刃石斧^{ふとがたはまぐりはせき}、加工斧^{かこう}（片刃）の柱状片刃石斧^{ちゆうじょうかたはせきふ}や扁平片刃石斧^{へんぺいかたはせきふ}があります。渡来系石器の代表である片刃石斧は、日本列島で受容されてから後、形や大きさに改良を加えながら複雑に発達していきました。片刃石斧は土木作業などに必要な木材を加工する道具であり、日本文化の特徴である「木の文化」を担う必需品として位置づけられていきました。樹木を伐採する石斧もこれと密接に関係し、太型蛤刃石斧の製作技術も著しく発達しました。

太型蛤刃石斧の伝播以前、日本列島には縄文文化の斧、「縄文斧」が存在

し、切り倒す立木はクリなどの比較的硬い樹種が中心でした。しかし稲作に伴う新たな斧は、土木用資材に使われるカシなどの、より硬木を対象とし、直径30cmを越える大木をも伐採するものでした。そのため、石斧身をつくる岩石の材質は厳選され、大きさ、重さを十分確保できる素材の獲得と高度な製作技術が求められました。縄文斧に一般的な緑色片岩や蛇紋岩などの変成岩材を玄武岩や輝緑岩などの火成岩材に変更し、石斧の大きさは縄文斧の一般的な法量（長さ18cm、厚さ4.0cm未満、重さ800g）から、長さ20cm、厚さ4.5cm以上、重さで1,000gを越えるものに改良していきました。10,000年にわたり発達してきた縄文斧を、大陸の技術を咀嚼しつつ、日本列島独自の伐採石斧として完成させたのです。結果として、石斧伝来の故地である中国大陸の石斧に比べ、太く、大きく、概観優美な「弥生斧」が誕生しました。まさに2,000年前以前に起こった倭製品の生産、Made in Japanの誕生といってよいでしょう。（町田勝則）



図1 縄文の石斧と弥生の石斧
（左：千曲市屋代遺跡群 右：長野市春山B遺跡 ともに当館蔵）

書庫と保存のひみつ

長野県立歴史館には2つの書庫があります

書庫とは書物や文書を保管するための建物や部屋のことを言っています

どっしりして2つもあまる？
どんな違いがあるんですか？

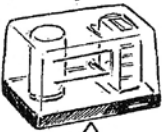


古文書書庫は古典籍や絵地図、古文書などを収蔵しています

行政文書書庫は、県民共有の知的資源となる明治から令和にわたる歴史公文書や県報などの行政資料を中心に収めています

2つの書庫は長野県立歴史館の1階の奥の方にあります

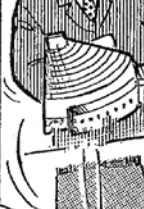
温湿度記録計 シグマII



2つの書庫内の設定温度は、夏が24℃、冬が20℃。湿度は、1年中55%になるよう中央監視室で管理しています



よこ



行政文書書庫
収蔵数 10万点超
(面積592㎡)

古文書書庫
収蔵数 28万点超
(面積583㎡)

特別収蔵庫

長野県立歴史館にある貴重な重要文化財などの多くを保管しています

書庫内は人の出入りによる温度湿度の変化を最小限に抑えるため立ち入りを担当者に限定し、書庫に入る際には

静電気防止スリッパを着用しています

史料の形状により様々な封筒に入れます

文書等の保存については劣化を遅らせるために必要に応じて中性紙の保存箱・封筒を使って収納しています

紙の史料料などの保存にとって水をかぶることは大敵。万が一火事起きたらハロゲン化物(ハロン1301)というガスで消火します

古文書書庫は天井、壁、床、棚が調湿に適した杉材で作られています



■2021(令和3)年 6月～9月の行事予定

6月 休館日 7・14 21・28	所蔵品展 2021年 至宝の名品 一学芸員のイチ押し 絵画工芸編一 3/13(土)～6/13(日)	講座・イベント 古文書講座 初級 A 第1回 6/6(日) B 第1回 6/10(木) 中級 A 第1回 6/5(土) B 第1回 6/10(木) 上級 第2回 6/26(土)
		長野県立歴史館の信州学講座 第2回 6/12(土) 13:30～15:10 「伝えられなかった災害」(林 誠)
		考古学セミナー 6/6(日) 中止になりました。
		考古学講座 第1回 6/19(土) 13:30～15:00 「時代の画期と暮らしの変化1」
7月 休館日 5・12 19・26	夏季企画展 青少年義勇軍が見た満洲 一創られた大陸の夢 7/10(土)～8/22(日)	古文書講座 初級 A 第2回 7/4(日) B 第2回 7/15(木) 中級 A 第2回 7/3(土) B 第2回 7/15(木) A 第3回 7/31(土) 上級 第3回 7/24(土)
	講演会 7/18(日) 13:30～15:00 「青少年義勇軍になる」 講師：伊藤純郎氏(筑波大学教授)	長野県立歴史館の信州学講座 第3回 7/3(土) 13:30～15:10 「近くて遠い人と水」 (寺内隆夫氏 長野県埋蔵文化財センター)
	シンポジウム 8/7(土) 13:30～15:30 「義勇軍体験の継承」 講師：寺沢秀文氏(満蒙開拓平和記念館館長) 講師：飯島春光氏(長野県歴史教育者協議会副会長)	考古学講座 第2回 7/17(土) 13:30～15:00 「道具の変化と生業の変化」
8月 休館日 2・10 16・23 30	特別親子映画会 アニメ「蒼い記憶」 8/1(日) 13:30～15:00	歴史館で夏休み 8/1(日) 10:00～15:00
	親子で知ろう！考えよう！ 夏休み平和学習会 7/24(土) 13:30～14:30 「元ゼロ戦パイロット原田要さんから学んだ戦争と平和への思い」 講師：宮尾哲雄氏(映画監督、フリーディレクター) 他 ※すべて、定員80名・事前予約制	古文書講座 初級 A 第3回 8/1(日) B 第3回 8/19(木) 中級 B 第3回 8/19(木) 上級 第4回 8/21(土)
		ティーンズ古文書講座 8/4(水)～7(土)
9月 休館日 6・13 21・24 27	秋季企画展 全盛期の縄文土器 一圧倒する褶曲文一 9/18(土)～11/23(火・祝)	古文書講座 初級 A 第4回 9/5(日) B 第4回 9/9(木) 中級 A 第4回 9/4(土) B 第4回 9/9(木) 上級 第5回 9/18(土)
	講演会 9/26(日) 13:30～15:00 「4900年前の大変動：地域集団の再編」 講師：安齋正人氏 (元東北芸術工科大学教授)	信州学出前講座in飯山 9/11(土) 13:30～15:10
		新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、講座・イベント等につきましては、状況により急遽中止とさせていただきます。

表紙写真の解説

農場で一休みの義勇兵 熊谷元一撮影

熊谷元一(1909-2010)は、阿智村(旧会地村)出身の写真家、童画家です。二・四事件(1933年)で代用教員を退職後、1939(昭和14)年に拓務省に嘱託として採用され、3度満州に渡り、満州移民や青少年義勇軍の写真を撮影しました。写真は満州の現地訓練所で農作業の合間に休憩をしている義勇軍隊員の姿です。会地村では村民に訓練所や生活の様子を宣伝するために、これらの写真が用いられました。

行事アルバム

*** 歴史館でこどもの日 ***



5月5日(水・祝)、2年振りに「歴史館でこどもの日」が開催できました!150名の皆様にご来館いただき、館内の各イベントコーナーからは楽しそうな声が聞こえてきました。この体験が素敵な思い出になっているとうれしいです。

***** 信州学講座 *****



3月6日(土)の信州学講座では、「上田から見る戊の満水」をテーマに上田市立博物館の高野美佳さんを講師にお迎えしました。古文書や絵図に残された過去の災害記録は、歴史の史料としての価値だけでなく、現在の災害対策にもつながる当時の「被害者の声」としても貴重であるとお話いただきました。温故知新とはまさにこのことではないでしょうか。

***** 掘るしん2021 *****

3月13日(土)～5月9日(日)、県埋蔵文化財センターによる速報展が行われ、県内5遺跡の遺物(土器、鉄製品等)が展示されました。



長野県立歴史館たより 夏号 vol.107

2021(令和3)年6月1日発行
 編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代260-6
 電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
 E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp
 ホームページ: https://www.npmh.net/

印刷 奥山印刷工業株式会社